

## 令和3年度 第3回港区区政会議 議事録

- 1 日 時 令和3年3月8日（火）午後6時30分～
- 2 場 所 港区役所5階会議室
- 3 出席者（委員） 対面：穴吹委員、池西委員、伊東委員、北山委員、讃井委員、  
染矢委員、松本委員、大平委員  
WEB：井本委員、牛島委員、加藤委員、高満委員、田口委員、  
武内委員、平井委員、山田委員、  
（市会議員） 対面：西議員  
WEB：藤田議員、山本議員  
（港区役所） 対面：筋原区長、遠藤副区长、近藤産業振興担当課長  
WEB：西山総務課長、細江にぎわい創出担当課長、  
花立協働まちづくり推進課長、早川教育担当課長、  
石田保健福祉課長、瓦保健・子育て支援担当課長、  
桐谷窓口サービス課長
- 4 議 題 令和4年度 港区予算（案）について  
令和4年度 港区運営方針（案）について  
大阪市港区まちづくりビジョン等の改定について  
その他

○近藤産業振興担当課長　こんばんは。定刻となりましたので、ただいまより令和3年度第3回区政会議の全体会議を開催させていただきます。私は、総務課産業振興担当課長の近藤です。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、会議に先立ちまして、筋原区長から一言ご挨拶をさせていただきます。

○筋原区長　皆さん、こんばんは。港区長の筋原です。座らせていただきます。

本日は皆さん、お仕事、またご家庭のご用事でお忙しい時間帯にもかかわらず、お集まりいただき、また、ウェブでご参加をいただきまして、誠にありがとうございます。

本日、今年度最後となる第3回港区区政会議、新しい委員の皆さんになってからは2回目の区政会議全体会議でございます。今回は来年度、この4月から始まる令和4年度の予算案、運営方針案、それからまちづくりビジョンの内容等についてご説明申し上げまして、最後に私のほうからも万博に向けて、これからの港区のまちづくりについて簡単にご説明を申し上げたいと思っております。

1点、皆様にぜひ報告させていただきたいことがございます。窓口サービスの格付評価というのを大阪市では平成24年度から、もう9年前からずっとやっております。星なしから1つ星、2つ星、3つ星ということで24区の区役所のサービス評価をミシュランみたいに覆面の調査員のプロの方が来て評価をされるのですが、2つ星でも民間の窓口サービスを上回るレベルという評価ですけれども、全国に誇れる一流ホテル並みのサービスレベルは3つ星となっていて、いまだかつて3つ星は取った区がなかったんです。3つ星は無理やろうと言われていたんですけれども、今回、港区が大阪市始まって以来の3つ星をいただくことができました。去年も24区で最高得点だったんですけれども、今年も最高得点で3つ星評価を初めていただくことができました。これは本当に区政会議はじめ区民の皆さんから日々いろいろなご意見をいただいて、ご指導、ご鞭撻をいただきまして、そのお声を基にいろいろな取組をさせていただいた結果と思っております。心より感謝を申し上げます。

あと、それからもう一点、私のことなんですけれども、4月1日から、5年港区長として本当に皆様方にお世話になりましたが、公募区長の任期が終了ということで、この4月から今度は生野区の区長ということで就任ということになりました。本当に皆様方にはこの5年間お世話になりまして、ご指導いただきまして、心より感謝を申し上げます。

私の後任の港区長は、今、生野区長の山口照美さんです。たまたまですが、生野区と港区で区長の入替わりというような形になりました。そういう形になって、今まで行政の場合は人が入れ替わるとちょっと方針が変わるんじゃないかというようなご心配が結構あって、

やっぱりそれは我々としてもよくないと思っておりますので、4月1日以降も、港区もこれから、後ほどご説明しますが、いろんなプロジェクトが進んでおりますので、引き続き私は港区の区政アドバイザーという肩書で、ちょっと新しい制度なんですけれども、そういう形で残らせていただくということになりました。逆に山口新区長は生野区の区政アドバイザーという形になって、今までやってきたことに齟齬のないように継続して、発展に向けて、万博に向けて頑張っていこうということで、そういう制度ができることになりましたので、また引き続きご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

それでは、本日も活発なご意見を賜りますようによろしくお願い申し上げます。ありがとうございます。

○近藤産業振興担当課長 ありがとうございます。これより座って進めさせていただきます。

区政会議につきましては、「区政会議の運営の基本となる事項に関する条例」の規定により、委員定数の2分の1以上の出席により成立することとなっております。

この出席の規定につきましては、従来は条例上、区政会議の運営形態としては、書面開催に係る規定は置かれておらず、会議の委員や関係者がその場に「出席」して議論することが規定されておりましたが、このたび、希望する委員がオンラインで区政会議に参加できるよう、条例上の委員等の「出席」に係る規定について、オンラインでの参加を含むものとして解釈を変更することとなりました。

今後の区政会議につきましても、オンライン参加も含めた手法で会議を運営してまいりますので、委員の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

それでは、現在の出席状況をご報告させていただきます。委員の定数が23名のところ、ただいま、オンラインでの参加も含めて16名のご出席をいただいております。委員の2分の1以上の出席がございますので、有効に成立していることをご報告いたします。

なお、区役所の各担当の職員ですが、職員のほうもオンラインで参加をしておりますので、お伝えいたします。

また、本会議は公開とし、後日、議事録を公開するため録音しますので、ご発言の際は必ずマイクをご使用ください。

新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、皆様に検温、マスクの着用、手指の消毒、咳エチケットをお願いしています。座席は隣の方との間に飛沫防止用のパーティションを設置し、できるだけ間隔を空け、換気のため出入口や窓を開放しております。マイクの受渡し

も事務局がその都度消毒を行いますので、ご協力をお願いいたします。会議中、少しでも体調が優れないようなことがありましたら、ご遠慮なくおっしゃってください。

また、条例第8条におきまして、市議員は「区政会議における議論に資するために必要な助言をすることができる」と規定されており、本日は、西議員にご出席いただいております。それと、オンラインで、今のところ山本議員にもご出席いただいております。藤田議員は少し遅れてこられると思います。ご報告いたします。

本日の会議用資料につきましては、報告のつど確認させていただきますので、資料がない場合や分からない場合などは事務局までお願いいたします。

本日の会議時間は1時間としまして、午後7時半の終了を予定しております。時間内で活発な意見交換が行われ、会議を効率よく進めることができますよう、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

それでは、会議に入ります前に、先日開催されました各部会の主な内容を簡単にご報告いただきたいと思います。

当日配付資料の5番ですね。5番もご覧いただきながらご報告を受けたいと思います。

では、こども青少年部会からお願いいたします。

○染矢委員 こども青少年部会の染矢です。私から、こども青少年部会での意見などのご報告をさせていただきます。

委員より「小学校の英語授業について、知人の教師は英語のスキルは基本的なもので小学生に教えられるスキルまでではない状態で、国の教育方針で教えざるを得ない。子どもにとってはクオリティーのある教育が受けられない。小学校の英語教育への改善案や外部や外国籍の先生を入れてレベルを上げることがあるのか」との質問に対し、校長先生より「最初は教員の英語力が必要であったが、現在は、小学校の英語教科書がデジタル化されており、デジタル教科書、指示手順があり、一定のクオリティーが保たれている。週1回程度の派遣教員による授業やデジタル教科書、1人1台端末で自主学習もできているため、全ての教員に特別な英語力が必要な状況ではない。また、経年テストは7から8割がリスニングテストであり、中学校は読み書きだが、小学校は聞いて慣れ親しんだものを書き写すリスニングに力を入れている」と答えられました。

次に、委員より「中学校の部活動に関して、学校の先生が部活動の指導をされているが、外部のプロを招いて部活動を教える。先生は時間の拘束や責任に関しても外部の方の導入で改善できるのではないか」との意見に対し、校長先生より「部活動については、文部科学省

は令和5年から外部指導員の配置を進めるとしているが、実際はそれだけの指導員が集まらない状況で難しい。教員への負担を考えると、外部の先生がすべき、また、部活動の指導も併せて教員がすべきなどいろいろな意見がある。今後、方針が必要と考えている」と答えられました。

次に、学校選択制を選ぶ理由が、港区では「児童・生徒数や学級数が多いこと」に対して、区長より「港区は、学校選択制により単学級になるなど、24区で一番影響が大きいと思われ、学校選択制アンケートの分析と課題をまとめ、対策をワーキンググループで本格的に検討していきたい。現在単学級である築港小と築港中は小中一貫による特色ある学習内容とし、対象生徒の範囲を大阪市全体に広げることができないかと考えている。単に児童が少ないから1つの学校をなくして統合ということにすると将来の希望が薄まり、失望感がまちに広がってしまい、よくない。港晴小、八幡屋小、池島小の推計を見ると、統合するなら3つを1つにしないと単学級は解消できない。少ないから統合ではなくて、万博以降の発展を見据えて、未来に希望のある新しい学校をつくらうというのを皆さんに相談したいと思っている。例えば八幡屋エリアは入舟公園や近隣センターの敷地で港中学と向かい合わせで小中一貫の新しい学校をつくるなど、アイデアではあるが、PTAや保護者の皆さんの話を聞きながら、希望の広がる学校をつくりたいと思っている」と答えられました。

こども青少年部会からの報告は以上です。

○近藤産業振興担当課長 ありがとうございます。

少し時間も押しておりますので、各部会のほうでご報告いただくのを主な内容でまとめていただきましてご報告いただきましたらありがたいです。

続きまして、防災・防犯部会、お願いいたします。

○穴吹委員 こんばんは。防災・防犯部会の穴吹です。よろしくお願いします。

防災・防犯部会は3月2日に実施いたしまして、見ていただいたら分かると思うんですけども、主立った点だけ抜粋して話させていただきます。

まず、ジュニア防災リーダーの養成講習、それと各地域の防災リーダーを増やす方策、八幡屋公園のマンホールトイレ等についての意見が出されました。

それについて、まず、ジュニア防災リーダーの修了生の受皿です。ユース防災リーダーのような形でつくって、それから今現在の地域の防災リーダーにつなげていくような取組を行うということを決めました。また、マンホールトイレについては、もっと皆さんの多くの方に周知徹底するように取り組むという回答がありました。

次に防犯なんですけれども、やはり今、港区でも特殊詐欺というのも非常に多いんですけども、それを減らすためにも、高齢者の家にある固定電話に注意喚起のステッカーを貼る。幾らお年寄りでも電話がかかってきて、その電話のところにそういう特殊詐欺に気をつけようというのがあれば、少しでも犯罪は減るんじゃないかなということで、電話の前に注意喚起のチラシを貼る取組を行うということ徹底していきたいと思っております。

また、若い人たちにも、今、SNSを通じてそういった被害があるということも意見が出されましたので、若者向けにも啓発に取り組むように回答がありました。

あと、簡単に報告は終わらせてもらんですけども、私自身が部会当日、初めてリモート形式での会議でしたので、慣れない議長で議事の進行がっぱいっぱいで、結構リモートで参加している方の意見を聞くところまでちょっと頭が回らなかった。ですから、多分リモートの方は会議に参加したというよりも、会議の傍聴で終わったような形になったと思っておりますので、次回からは、自分の反省点としてもっと気をつけていきたいと考えております。以上です。

○近藤産業振興担当課長 ありがとうございます。

そうしましたら、最後になります。福祉部会、よろしくお願いします。

○讚井委員 福祉部会から報告をします。讚井です。よろしくお願いします。

2月25日に福祉部会が行われ、主立った意見と区役所からの回答を報告します。

児童虐待や不登校、貧困問題などの子どもをめぐる課題についてのご意見がありました。区役所からの回答として、「問題が深刻化、重篤化する前にできるだけ早く区役所へ相談いただけるよう広報紙等を使って実施するとともに、学校での気づきが重要であることから、学校や地域、行政の間の連携を強化して適切な支援につなげてまいりたい」という説明がありました。以上、報告を終わります。

○近藤産業振興担当課長 ありがとうございます。

以上で部会の報告にさせていただきたいと思えます。

それでは、議事のほうに入ってまいりますので、ここからは讚井議長、よろしくお願いいたします。

○讚井議長 改めまして、皆さん、こんばんは。議長として進行役を務めさせていただきます。讚井です。よろしくお願いいたします。皆さんのご協力の下、活発な意見交換をいただきながら会議を円滑に進めてまいりたいと思えますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、議題に入ります。

議題はもうまとめて議題1、議題2、議題3とさせていただきます。議題1、令和4年度予算（案）、議題2、令和4年度運営方針（案）、議題3、大阪市港区まちづくりビジョン等の改定について、併せて区役所のほうから説明をお願いいたします。

なお、説明後、一括して委員の皆さんからのご意見やご質問をいただきたいと思っておりますので、よろしくをお願いいたします。

○近藤産業振興担当課長 そうしましたら、議題1、議題2、議題3について、私のほうからご説明させていただきます。

議題1、令和4年度予算（案）、議題2、令和4年度運営方針（案）に関しましては、資料の事前送付の際にも記載しておりましたとおり、事前配付資料DとEをご一読いただき、先日の各部会でもご確認いただいておりますので、本日は説明を省略させていただきたいと思っております。

続きまして、議題3、大阪市港区まちづくりビジョン等の改定についてご説明させていただきます。

事前配付資料のB、大阪市港区まちづくりビジョン、概要をご覧ください。

港区の総合計画であります大阪市港区まちづくりビジョンでは、「「暮らして楽しい」「遊んで楽しい」「働いて楽しい」まち港区」の実現のため、まちづくりの5つの柱、「区民主体のまちづくり」「安全・安心・快適なまちづくり」「健やかにいきいきと暮らせるまちづくり」「「子どもの学び」と「子育て世代」を応援するまちづくり」「訪れたい魅力と活気あふれるまちづくり」を定めております。議題2の運営方針もその5つの柱を基に策定し、議題1の予算案もこれに沿った予算編成を行いまして、区政を運営しております。

この5つの柱のうち、より区民の皆様の生活の根幹となる「安全・安心・快適なまちづくり」「健やかにいきいきと暮らせるまちづくり」につきましては、その具体的な指針となります、事前配付資料B-2の港区防災計画、事前配付資料B-3、港区地域防犯計画、事前配付資料Fの港区地域福祉計画という3計画も併せて策定しております。

これらまちづくりビジョンと3計画につきまして、当初、平成31年度を目標年度として平成28年に策定いたしましたが、その後も特に区の実行方針に大きな変更がないことから、時点修正にて改定する旨、これまで区政会議でご承認をいただいております。

このたびも令和3年度末までの計画となっているこれらのビジョンと3計画につきまして、一昨年、昨年と同様、大きな方針に変更がないことから、再度令和4年度末までの計画へと時点修正にて改定したいと考えております。

改定内容につきましては、目標値の更新や状況の変化に伴う記述の変更などを行ってまいりまして、事前配付資料のBに注釈をつけて変更点が分かるようにお示しさせていただいております。

誠に簡単ですけれども、議題1、令和4年度予算（案）、議題2、令和4年度運営方針（案）、議題3、大阪市港区まちづくりビジョン等の改定についての説明は以上となります。よろしく願いいたします。

○讚井議長 それでは、ただいまのご報告に対するご質問やご意見などを承りたいと思います。どなたかございませんでしょうか。

リモートの方も何かありましたら、挙手していただくかチャットとか何かで合図していただけたらと思います。

各部会のときにいろいろとご意見をいただいていたかと思しますので、ないようでしたら。特にございませんでしょうか。

それでは、次に、議題4のその他に移りたいと思います。区役所より説明をお願いいたします。

○近藤産業振興担当課長 続きまして、議題4、その他でございます。3つございます。

1つ目ですが、今回の区政会議から「特にご意見を求めたい内容」をお示ししまして、委員の皆様からより具体的なご意見をいただくことができました。区役所の対応と考え方を事前配付資料や当日配付資料の6に記載しておりますので、そちらのほうは内容をご確認いただければと思っております。

2つ目です。前回の区政会議で武内委員からいただきました「視覚障がい者の方にとって重要な点字ブロック」について、この間の区役所の対応を当日配付資料7でまとめておりますので、少しご報告させていただきたいと思っております。資料の7をご覧ください。

前回、武内委員のほうから、視覚障がい者の方にとって重要な点字ブロックということでご意見をいただいております。意見の内容としましては、大阪メトロ弁天町駅からライブ前を通過してガスト周辺までの中央大通り沿いの歩道の点字ブロックや看板によって不便を強いられていることについてのご意見でした。

その後の、区政会議後の対応といたしましては、視覚障がいをお持ちのご本人と一緒に現地を歩きました。点字ブロックに加え、ご本人からは横断歩道に設置されている音声案内についてもご意見をいただきましたので、再度建設局、区役所、さらには音声案内を設置しております港警察署とで、三者で確認をいたしました。

今後の対応についてですが、1つ目は、指導や見回り強化といった早期に対応できるものについてはすぐ対応をしております。2つ目、点字ブロックの適正設置ということで、これは工事も伴いますので、今後対応に向け、建設局と調整をしております。3つ目ですが、警察の関連になりますが、音声案内の新設といった現時点で対応が少し困難とされているものについてということで、この3つに分けて、今後対応してまいりたいと思っておりますので、またこの進捗についても区政会議等で報告いたしますので、よろしくお願いいたします。

2つ目の説明については以上となります。

続きまして、3つ目でございます。その他の3つ目は、今日は、最後に「港区区政会議みなとOSAKAのまちづくり」につきまして、筋原区長からご説明させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○筋原区長 すみません、ちょっとお時間をいただきまして、万博を見据えてのこれからの港区のまちづくりというか、主に部会であり触れていないまちの活性化のお話です。私はいつもまちづくりというのは家と同じで、家の土台の部分、基礎になる部分が安全・安心の防災・防犯で、1階に当たるのが産業振興で、2階、3階が教育や地域福祉というふうに思っています。今、大阪市内でも平家の建て売りというのはまずないので、やっぱり2階、3階の地域福祉や教育が充実していないとまちに人は住んでくれないわけです。でも、家と一緒に、1階の産業振興がないと、そもそもまちとして成り立ちませんので、だからいろんな活性化が大事と思っています。その活性化の部分を少しお話しさせていただきたいと思っております。

お手元にパワーポイントの資料の打ち出しもありますので、それをご参考いただきたいと思います。

このたび、港区の3つのエリア、弁天町駅周辺の東部エリアと朝潮橋駅周辺の中部エリア、それから大阪港駅周辺の西部エリア、3つのエリア別の活性化ビジョンを策定させていただきました。

弁天町駅周辺の東部エリアにつきましては、これは交通の結節点です。年間800万人以上が行き来する、これ実は大阪のベイエリアーの交通の結節点なんですけれども、人の流れと、また大阪ベイタワーという非常に高いオフィス機能、都市機能があります。ポテンシャルとしては、また弁天埠頭がございます。海の船と川の船がここで切り替えることができるという大阪でも数少ない貴重な場所です。それから、あと駅前、みなと中央病院の隣に今工事中の区画整理記念交流会館が建設中です。ここに今の区民センター、老人福祉センター、子ども

も・子育てプラザ、図書館、これらの機能が集約されて、予定では1年後に出来上がってくるといふ予定でございます。また、市岡商業の高校の跡地も活用していくということで、いろいろな意見交換会でも活用のご意見をいただいているところでございます。

中部エリアなんですけれども、これは何と言っても八幡屋公園、大阪市の中央体育館がございまして。これは本当に大阪市でここしかない貴重な施設。緑とスポーツ施設があります。この豊かな居住空間、すばらしい居住空間があるので、やっぱり住んで快適で健康的なまちづくりの拠点のエリアになると思っております。

それから、西部エリア、大阪港駅エリアなんですけれども、これは皆さんご承知のように、築港エリアというのは、大阪港の宝島と言っているんですけれども、島のようになっております。このエリアについては後ほどご説明をいたします新産業を生み出す、そういう実証実験をするのにすごく適したエリアでございますので、そういう社会実験、実証実験もできる、また、海遊館もあり、観光の拠点にもなっておりますので、そういう先進的なまちづくりの場所と考えておまして、この3つのエリアをいろいろなシェアサイクルであるとか交通手段で結んでいくということを考えております。

万博に向けては、やっぱり大阪万博には世界中から人と富、お金と、それと新しい技術が集まってくるので、これを素通りさせたらいけないと思うんです。これをやっぱり港区でしっかりと受け止めて、そして、万博以降も港区の発展に継続してつなげていくということが必要だと思っております。

そのために何をしないといけないかと思っているのは、まず1つは、やっぱり万博から人を呼び込む。これはただの観光集客みたいな単純なことでは、やっぱり人はなかなか来てくれないと思うんです。今、ちょっとコロナでインバウンドは一休みになっていますけれども、やっぱり世界中でもいろいろなところに行っている方は、ただの観光メニューは飽き飽きしているので、やっぱりそこの地元の楽しい生活が感じられるような場所、それが探してでも行きたい魅力的な場所だと思うんです。そういう探してでも行きたいような魅力的な場所をつくるということが必要だと思っております。

2つ目には、万博の会場、夢洲から、海から船で港区に人、富、新技術呼び込む。次に、3つ目には、また陸のほうからも呼び込んでいくということです。次の4つ目、新技術を港区の産業につなげていくということが必要やと思っております。

港区は港町なので、海運、港運を中心としていろいろな産業があります。建設もあるし不動産業もあるわけでございますけれども、やっぱり新しい技術、その技術を持ってチャレン

ジする人に港区に来てもらうというのがすごく大事だと思います。例でいうと、アメリカにはシリコンバレーというまちがあります。グーグルやフェイスブックや、G A F Aと言われる世界の名立たる巨大企業の本社がほとんどここに集まっています。でも、ここは最初から本社を呼ぼうとしたわけじゃなくて、ビル・ゲイツさんであるとかスティーブ・ジョブズさん、そういう創業者の方がまだ名前も知られていないただの若者だったときに新しいチャレンジをしようと思ったときに、そういうチャレンジを受け入れてくれるまちだったのがシリコンバレーだったわけです。

ですので、港区というのは今まで戦災で一度壊滅状態になりました。それからジェーン台風、第2室戸、2回の台風でもうほぼ水没しました。また壊滅状態になって、そのたびに立ち上がってきて、そして、まちの90%を2メートルかさ上げして、40%を減歩して公共のために差し出すという、これはもう世界でここだけ例のない区画整理事業を成し遂げたまちです。新しいことを積極的に受け入れるという懐の深さのある、そのDNAを港区は持っておりますので、今、日本で新しいチャレンジをしたい人というのは、今もやっぱりそういうベンチャーを起こしてシリコンバレーをめざす人が結構いるんです。これは非常にもったいないし、ばからしいことだと思っていまして、シリコンバレーなんか行くなと、港区へ来いと思っていまして、ですので、私が言いたいのは、ライバルはシリコンバレーやと。港区に新しいチャレンジする人を呼び込みたいと思っていまして。

そのためには、今、こういう2つのプラットフォームをこの3月に立ち上げようとしています。左側が産業振興のみなと先端技術協議会、右側がコミュニティーを育成するみなと地域マネジメント協議会という仮の名前にしているんですけども、この左側のみなと先端技術協議会というのは、地元企業の皆さんに新しいチャレンジをする、そういうチャレンジの内容を理解していただいて、それがいいと思ったら応援してもらおうという協議会、プラットフォームです。

これは後でご説明しますが、例でいうと、空飛ぶクルマというのがあります。今、万博でも一番の目玉の新技术になっているわけですが、これは去年、港区で初めての海上飛行の実験を中央突堤でやりました。海の上を空飛ぶクルマが飛ぶとなると船も止めないといけないですし、家の上を飛ぶのに住民の方が「そんなん落ちてきたらどうすんねん」というふうに言われるとできないわけです。ですので、それはやっぱり地元の企業もこの重要性を理解していただいて、住民の方も理解していただいて空飛ぶクルマ、これがこれからの新産業になっていくと思うわけですが、それがやっぱり港区でそのチャレンジを受

け入れようということでそういう機運をつくっていけるように、このみなと先端技術協議会というのは地元の企業の協議会として、右側の地域マネジメント協議会は、これは住民の皆さんの協議会です。住民の皆さんにご説明をして、良い物だったら応援していただくということの、そういう2つのプラットフォームを3月に立ち上げようとしております。

この新しいチャレンジをまちが受け入れるということを、今、社会受容性という言葉で表しておりますけれども、その受容性を高めるということが、そういうまちがこれから世界中で選ばれて発展していく、生き残っていったって発展していくまちになる、港区はそのDNAがありますので、この2つのプラットフォームでまちの皆さんにご理解をいただいて、ぜひ新しいチャレンジを受け入れるまちとして発展していきたいと思っています。この社会受容性を高める、そういうシステムを持ったまちというのは、多分港区が日本で初めてになると思います。そういう形でやっていきたいなと思っていますところです。

魅力ある場所づくりということと言うと、誰にとっても魅力あるところを目指したいかと言うと、やっぱり若い方に来ていただきたいというのは1つあります。まちに若い方に来ていただきたい。今、2000年代以降に生まれた若い世代、Z世代といいますけれども、Z世代というのはもう生まれたときからインターネットもあってスマホにも親しんでいて、すごく才能も新しい、感覚も新しくすごい可能性があると言われていています。そのZ世代の若い方をまちに引きつける核となるもの、そういうものが要ると思うんです。私は、それはこのスケートボードやと思っています。

スケートボードというのは、東京オリンピックで非常にブレイクしたわけですが、それまでは何か迷惑行為みたいに言われていましたが、実はアメリカでは昔の日本のスキーと同じような巨大産業になっています。スケートボードというのは、いろいろな価値観を認め合って、自由にその価値観を共有して楽しむというスポーツです。今、港区はRIDERS GAMEというZ世代の人らが、学生のときに立ち上げたスケートボードの動画配信をやっているベンチャー企業と連携しています。このRIDERS GAMEというのは、代表の方は動画を配信すると20万人とか物すごい数の人が見るインフルエンサーです。そういう方達ですので、ものすごく発信力もあります。もともと中心になっている方は海外で育った若い方々で、海外の、例えばスケートボードを核として発展したまちであるアメリカのロサンゼルスやベニスビーチの自由な気風、自由な文化、新しいことを受け入れる、チャレンジを受け入れるという、そういう空気を持つまちをつくりたいということでこのRIDERS GAMEの活動をしているんです。ただ単に自分たちがスケートボードを滑るパークが

欲しいとか、そういうだけじゃなくて、もっと大きいまちづくり、自由なまちをつくりたいということで活動をしておられるので、今、港区はこのRIDERS GAMEと組んでスケートボードのイベントも去年始めました。

次に、魅力ある場所づくりでいうと、もう一つの大きい核は八幡屋公園です。ここについては、今、八幡屋公園の指定管理者であるスポーツみどり財団さんと一緒にスポーツコミッションという組織をつくろうとしています。これはスポーツを核として、スポーツ観光であるとか、あるいはいろいろなイベントを行ってまちの活性化につなげようという、そういう活動をする組織なんですけれども、これは2019年やから、もう早くも2年前ちょっとですね。コロナでいろんなイベントが止まってしまって残念だったんですけれども、コロナが始まる前にやりました八幡屋公園グランピック、これはせつかくの公園があるんですけれども、日本の公園というのは、例えばバーベキューをやってはいけないとか、これをやってはいけないとか、何かやってはいけないことばかり並べる感じがあって、そうではなくてやはりせつかくこういうすばらしい場所があるので、この公園を地域の皆さんに使い倒していただくということが面白いまちにするためにはすごく必要だと思います。だから、その限界にチャレンジしたイベントやったんですね。普通公園ではできないバーベキューもこのときは区役所イベントということでやりました。音楽もやりましたし。

これからスポーツコミッションで、例えば月に1回でもこういう面白いイベントを八幡屋公園で継続的にやって、とにかく住んでいる方々のみんなで面白いアイデアを出してもらって公園を使い倒していただくということで住む魅力を増していくということです。そういうことをやっていきたいと思っています。

それから、海から呼び込むということでは、船のイベントとしては、弁天埠頭で、これも弁天埠頭のイベントをやりました。舟運で、船でつないで、それからベイタワーから人の流れをつくるという実験をいたしました。弁天埠頭にある加藤汽船ビルには、実は日本で指折りのすごい有名なクリエイターが集まっていて、あまり知られていないんですけれども、実はすごいビルなんです。そういうポテンシャルもあるので、ぜひ船の、もともと皆さんご存じのように、あそこは関西汽船の本社があって、国内の舟運の一大拠点でしたので、またその辺も万博を契機に日本の国内舟運の拠点として、将来的にはここから瀬戸内、九州ともつないで、そういう拠点になっていくようにしたいと思っています。

それから、陸から呼び込むということでは、船から下りてからシェアサイクルに乗ってきていただくという実証実験もやっております。港区内のHELLO CYCLINGさん、

ソフトバンク系ですけれども、公募しまして、そこが手を挙げてくれて、そこと組んで、天保山公園や八幡屋公園やいろいろなところにシェアサイクルをつくっています。

これはただ単にシェアサイクルというんじゃなくて、進化していつているんです。今は自転車の形なんですけれども、e-bikeという何百キロも走れるすごい高性能な電動自転車もこのHELLO CYCLINGは配備をしてくれています。去年のイベントでも実際にそれを走らせてもらったんですけれども、それから、さらにモビリティという1人乗りの小型自動車みたいな形ももう既に出てきております。

僕はこれが進化していつてもっと大きい乗り物になっていくと、これがまさにオンデマンド交通になっていくと思うんです。大阪市内でいくと、今、生野区で大阪メトロがオンデマンド交通のバスを走らせて社会実験をやっているんですけれども、難しいのは、採算が取れるかどうかなんです。普通に走らせても、赤バスはやっぱり採算取れずになくなっちゃったんで、普通のバス、昔のバスの延長であっては駄目なわけです。僕はそこの可能性は、このシェアサイクルの進化系でオンデマンド交通が採算取れる形でできていくんじゃないかと期待してまして、HELLO CYCLINGと組んでこういう取組をやっているというところです。こういう近隣観光というマイクロツーリズムのこういうルートも一緒になってつくってやっているところなんです。

それから新技術を港区の産業にということは、事例でいうと空飛ぶクルマです。これは去年初めての海上飛行実験を港区でやりました。これはぜひ発着場所の実験のポートを港区に造りたいと思って、今、一生懸命活動しているところなんです。これが港区に初めてできましたらこの港区でやっている空飛ぶクルマというのは、空飛ぶクルマというのいろいろな型があって、長距離を飛ぶ空飛ぶクルマというのはちょっと小型ジェットに近いような形なんですけれども、港区から夢洲まで飛ぶというのは、こういう大型ドローンみたいな感じなんです。人を乗せて飛ぶドローンみたいな形で。

この型というのは、何がいいかというと、災害のときとか南海トラフ巨大地震のときに、やっぱり津波が来たら港区は2日ほど水につかるおそれがあるわけです。そのときに物資をこのドローンで運ぶ事もできますし、また、日本で初めてポートができれば、そのこと自体でも、港区が空飛ぶクルマのポートを受け入れたんやということで、港区へ行ったら新しいチャレンジを受け入れてくれるまちやなということが一遍に広まりますんで、ですから、もう今も既にそうなんですけれども、新しいチャレンジをしたいというベンチャーは、大阪でやるんやったら港区やという感じにもう既になりつつあるので、新しい事は港区でという気

運を高めていきたいと思えます。

ですので、いろんなこういう実証実験をやりたいというお声がけもありますし、これはまた今度の3月28日に未来会議というのを最後の総まとめとしてやらせていただくんですけども、そのときにもまたぜひお越しいただきたいんですけども、そのときもご報告するんですけども、今、日本全国の高等専門学校、高専の方からまちをよくする、課題解決するアイデアを募集しています。そのアイデアで優れたものを選んで、それを実際にビジネス化できるかどうかということの社会実験、実証実験を港区でやるという取組も始めようとしております。そういう形で新しいチャレンジがどんどん港区で生まれるようになっていけばと思っております。

こういうような形で万博に向けて、ライバルはシリコンバレーということで、港区を元気に発展させていきたいと思っております。まだこういうプロジェクトが続きますので、また4月からも引き続き港区区政アドバイザーとして頑張らせていただきますので、また引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。ありがとうございます。

○讚井議長 ありがとうございます、区長。未来の港区をいろいろかいま見られることができ、引き続きまたよろしくお願いいたします。

どなたかご質問とかご意見とかございますでしょうか。

ないようでしたら、今日の議題1から3に関しては、皆さんに承認を得たということで議題を終わらせたいと思えます。

本日は市会議員の先生方にご出席いただいておりますので、一言ずつお言葉をいただきたいと思えます。

まず、西議員、よろしくお願いいたします。

○西議員 皆さん、こんばんは。大変お疲れさまでございます。年度末ということで、3回目の区政会議に出席のほうをさせていただきますして、本当にご熱心に皆さん、討議していただいているなと思っておるんですけども、区長が、残念ながらといたしますか、3末で港区からひとまずということでございますけれども、先ほどもまちづくりのお話をいろいろしていただきまして、この5年間で大変港区のこれから未来の基礎を非常につくっていただいたんではないかなというふうに思えます。

その中で、集大成で今お話を伺ったんですけども、実はこれ以外にも様々な民間の投資でありますとか、また、築港地域にとりましての新たな埋立開発といったような形で様々な大きなプロジェクトも、弁天町の駅前の再開発もそうですけれども、そういったことも実は

控えております。そういった意味では、本当にこれからの港区の明るい未来を皆さんと共に  
つくっていききたいと、このように思っております。新しい区長を迎えられてもアドバイザー  
として筋原区長もお越しいただけるということでございますので、どうかまた委員各位にお  
かれましても、さらに区政発展のためにお力添えいただきたいということをお願いいたしま  
して、ご挨拶とさせていただきます。本日は大変ありがとうございます。

○讚井議長 ありがとうございます。

続きまして、藤田議員、よろしく申し上げます。

○藤田議員 お疲れさまです。聞こえますでしょうか。

すみません、ちょっと今、市会のほうで予算議会を今まさにやっている最中で、私もまだ  
市役所を出られていなくて、今日はオンラインということで途中から参加をさせていただきました。  
大変失礼しました。

本当にこの区政会議、委員の皆様も替わられて、非常に議論も深まりがあるようになって  
きたのかなというふうに思っております。特に点字対応の件ですね、今日もご報告ありまし  
たように。ああいうのもこの場でご提起いただいたことがきっかけですぐに動いていただい  
たということで、ぜひ皆さんもこの会議で言えば物が動くんだということを思っていたいで、  
どんどん区をよくするために、またご意見いただければなというふうに思っております。

区で対応可能なことは区長がすぐやってくれますし、そうでないことは我々市議会議員が  
市のほうでしっかりやりますので、また引き続きよろしく申し上げます。今日はありがとう  
ございました。

○讚井議長 ありがとうございます。

続きまして、山本議員、よろしく申し上げます。

○山本議員 私も、すみません、予算議会ということで、市役所のほうからリモートで参加  
させていただいております。

今日は本当に夜遅くまで皆さん、お疲れさまでございました。貴重な意見、それから、最  
後区長が5年間やられたいろんな集大成の発表がありました。港区の本当に様々な特徴を捉  
えた本当に楽しいまちづくりの提案だったのかなというふうに思っております。

新区長を迎えても、しっかりと港区のよさを区長と共に高めて、また磨いていながら、  
それぞれ各方面の皆さんが今日はお集まりでございます。それぞれの分野でやっぱりしっか  
りと活躍できるような、そんなまちづくりをしっかりと皆さんと築いていきたいと思いま  
す。本当に今日はお疲れさまでございました。

○讚井議長 ありがとうございます。

市議員の先生方、ありがとうございました。

あと、全体を通じて区役所から何かないですか。

ありがとうございます。

それでは、これで全ての議事が終わり、会議を終了したいと思います。あとは区役所にお任せします。皆さん、円滑な議事運営にご協力ありがとうございました。

○近藤産業振興担当課長 讚井議長、議事進行ありがとうございました。委員、関係者、市議員の皆様、ご協力ありがとうございました。

限られた時間での会議となっておりますので、十分にご発言いただけなかった委員の方につきましては、配付資料の9にご意見シートをおつけしておりますので、そちらのほうにご記入いただきまして、また区役所のほうにご提出いただきたいと思います。お寄せいただきましたご意見につきましては、区役所の対応と考え方をまとめまして、次回の区政会議、今のところ6月下旬頃開催予定としておりますが、そのときに回答させていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

そうしましたら、最後に副区長の遠藤より閉会の挨拶をさせていただきます。

○遠藤副区長 どうも皆様、本日は夜分にお集まりいただきましてどうもありがとうございました。

間もなく始まります令和4年度ですけれども、本日ご承認いただきました予算案、運営方針案に基づきまして、新区長、それからアドバイザーの筋原区長と共にやっていきたいと思っておりますので、どうぞ引き続きよろしく願いいたします。どうも本日はありがとうございました。

○近藤産業振興担当課長 ありがとうございます。

そうしましたら、本日の区政会議はこれで終了いたします。皆様、ありがとうございました。